

平成 26 年度総合研究

「福岡の国際競争力に関する研究」中間報告サマリー

2014 年 12 月 15 日

(公財) 福岡アジア都市研究所

(公財) 福岡アジア都市研究所は、福岡地域の持続的な発展を目指してグローバルな観点から、福岡の国際競争力に関する研究に取り組んでいます。このたび中間成果をとりまとめましたので、概要をご報告いたします。



福岡*1



シアトル*2



バンクーバー*3



メルボルン*4



ミュンヘン*5



バルセロナ*6

本研究に関するお問い合わせ先

(公財) 福岡アジア都市研究所 久保・山田

E-mail : info@urc.or.jp

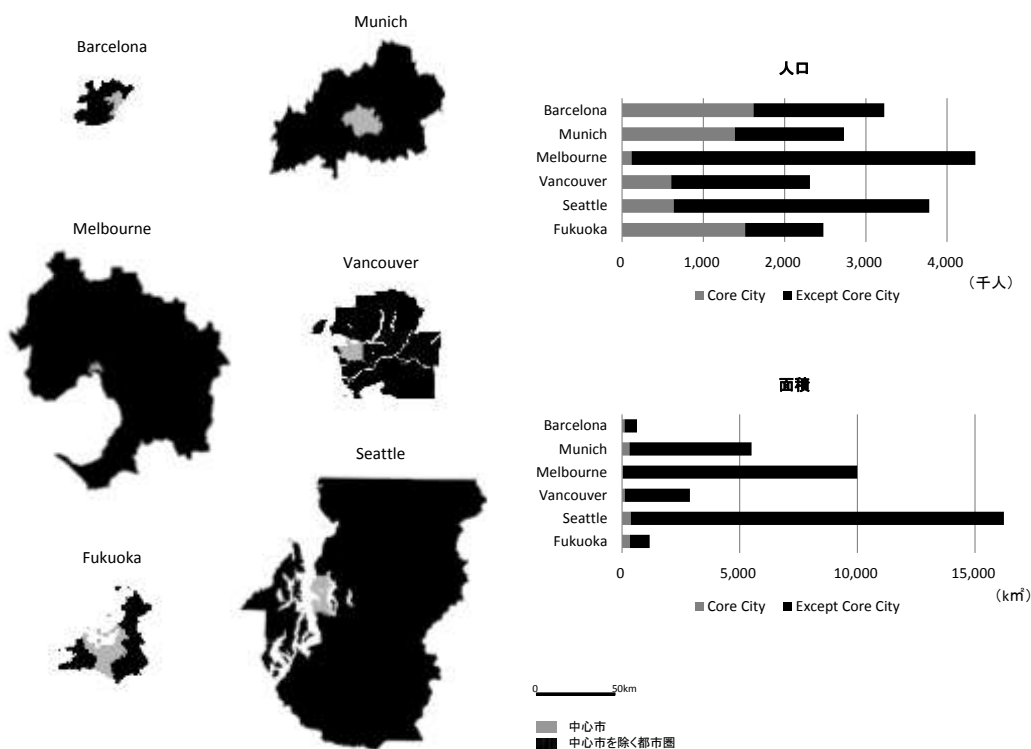
電話 : (092)733-5686

研究の FINDINGS

1. 福岡市および福岡都市圏は、国際地域ベンチマーク協会に所属する首都でない5つの都市、シアトル・バンクーバー・メルボルン・ミュンヘン・バルセロナと極めて高い類似性を有しており、これら5つの都市は福岡の今後の都市戦略上重要なベンチマークになりうる。(図1)
2. 福岡を含む IRBC 6 地域について、「生活の質の向上」および「都市の成長」に分類して指標値を比較したところ、「生活の質の向上」においては福岡のポジションは、その他の都市と同等にある。しかし、「都市の成長」においては、比較5都市と一定の差がみられた。(図2)
3. 福岡は今後の基本戦略として、高い生活の質を維持しながら、都市の成長を促進すべきである。(図2)
4. 「生活・コミュニティ」においては、コミュニティの発展につながる、女性や高齢者のさらなる社会進出や、国内外からの高度人材の誘致を進めるべきである。(図3)
5. 「安全性・持続性」においては、強みとしての「都市のコンパクトさ」や「公共交通の利便性」に磨きをかけ、職・住の両面での都市の魅力をさらに向上させるべきである。(図4)
6. 「リソース・生産力」においては、文化・観光戦略の強化による福岡の国際ブランド力の向上に取り組むべきである。(図5)
7. 「イノベーション・交流においては、スタートアップ法人減税や外国人創業人材の在留資格の見直し(特区メニュー)などの着実な実施、イノベーション原動力としての海外人材の増加を目指すべきである。(図6)
8. さらに、予定されている第2期展示場の拡張を契機とした魅力あるウォーターフロント整備、および福岡空港の滑走路増設等による国際ゲートウェイ機能早期強化が望まれる。(図6)
9. 上記の戦略を着実に実施した場合、福岡の国際的なポジションは、IRBC 5 都市と同等になりうる。(図7)
10. 現状での「都市の成長」における IRBC 5 都市との格差を成長のポテンシャルとみなして、「グローバル創業・雇用特区」を足がかりとした、国内外からの積極的な投資や優良な人材・企業の集積を促進すべきである。

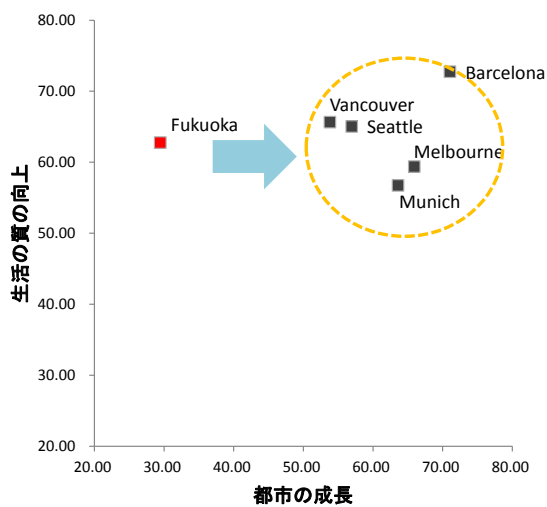
<図1>

IRBC 6都市圏の人口と圏域



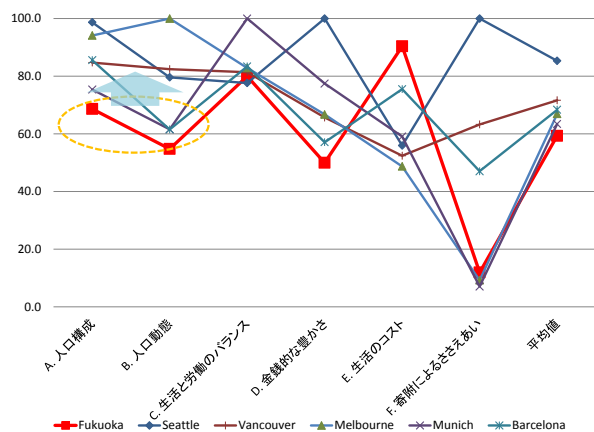
<図2>

福岡のポジション 2014年



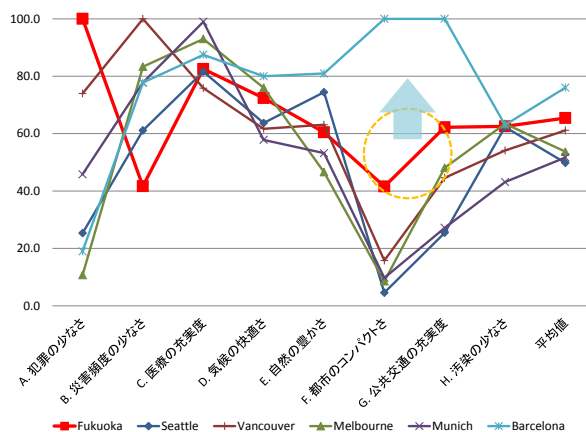
<図3>

1. 生活・コミュニティ



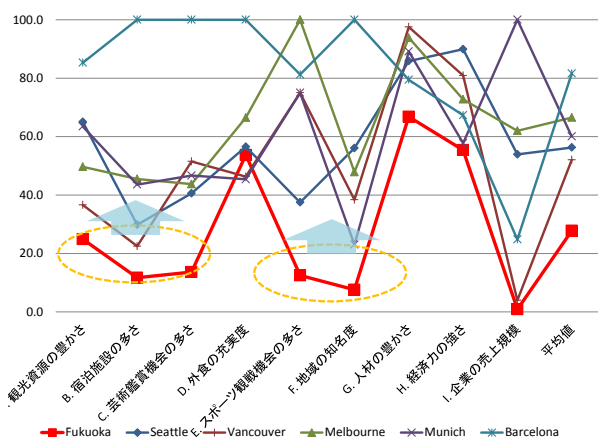
<図4>

2. 安全性・持続性



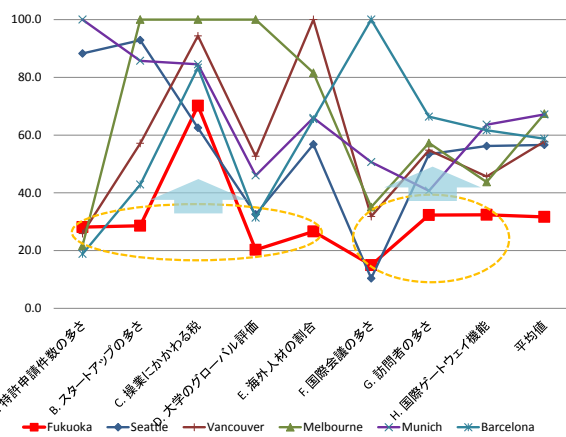
<図5>

3. リソース・生産力



<図6>

4. イノベーション・交流



<図7>

福岡のポジション 20XX年

